



脳性麻痺〔両上下肢機能障害・知的障害（DIQ48）〕の障害者支援施設入所者の作品です。

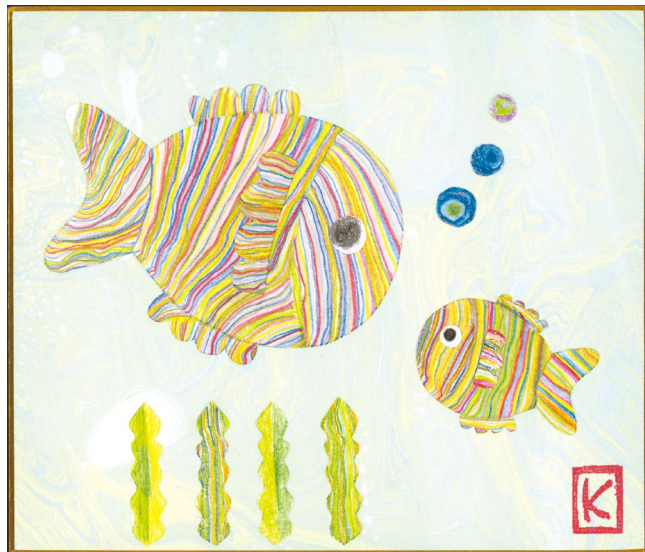
以前は自ら絵を描くということは少なく、塗り絵を行うと、赤や黒で塗りつぶす状態でした。施設の移転改築に伴い、静かな個室で落ち着いて過ごせる環境になると、色彩豊かな絵を描くようになりました。

この作品は、あらかじめ魚の形に切り抜いた画用紙に、色鉛筆で自由に色づけをしていた

きました。マーブリングの海に泳がせると、とても素敵な作品に仕上がりました。

他者との交流が少なかったご利用者ですが、この作品をきっかけに、多くの方に声をかけていただけるようになりました。

ご本人の描く絵は、見る人を笑顔にしてくれるものばかりです。作品を介して他者とかかわることで、ご本人の世界も広がっています。（担当 OT：喜多川真理子）



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



高島 楽「トラ」

もう2年以上も経つのに、未完成のままやけど、好きにしようってこの絵を渡してくれました。頭髄損傷で不自由な生活を送っています。夕方になると自分で駆動してリハビリ室へやってきてホットパックをしながらよく観察され、髪型が変わったこと等に気がついて話してくれます。

彼はよく絵を描いてくれます。私は、そんな彼が描く絵が大好きです。介護さんがわかりやすいように、車いすへの移乗介助の仕方等、自分でイラストをつくったりしています。療育センターの療護園のほうに移られました。お見舞いに行き報告すると「あの絵が？」と照れた表情をされていました。これで彼に会いに行く口実ができました。私は、彼のファンです。たくさん絵を描いてくれてありがとう。また絵を描いてみてください。応援しています。（担当 OT：浜田真理）